

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 城南 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

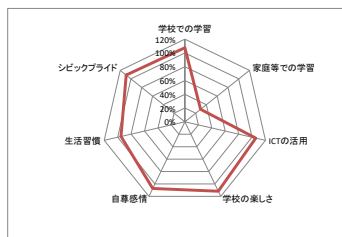
- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回っているが、他の項目はすべて下回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	・文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	・問題の形式として、選択、短答式に比べ、記述式になると回答率が急激に下がる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題	下回っている
	努力が必要な問題	・簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・「朝食を毎日食べている」は昨年同様、全国平均と比べて低いが、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」は全国平均を上回っている。
・「学校での楽しさ」は全国平均を上回っており、これからも生徒間の充実したコミュニケーションを良好に保つために、生徒と教師間の良好な関係を維持していきたいと考える。
・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、1時間以上の回答をした生徒がそれぞれ2割、3割であった。そのため、タブレットを活用した家庭学習の充実を図っていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

・「めあて」「まどめ」の提示を授業で徹底し、わかりやすい授業への取組を強化する。

・タブレットのアプリなどを活用し、長期休み中の基礎学力の定着を図る取組を継続して行う。

・補充学習を充実するため、これからも考査前などに放課後学習会を開き、学習内容の定着を図る。

- 家庭生活習慣等に関する取組

・保護者への協力を得ながら、中学校区の小学校と連携し、小中7年間を通した生活習慣の改善・維持に取り組む。

・保健体育科や家庭科の教科の中などで、生活習慣の改善に向けた授業を実施し、自ら実践できる生徒の育成を図る。